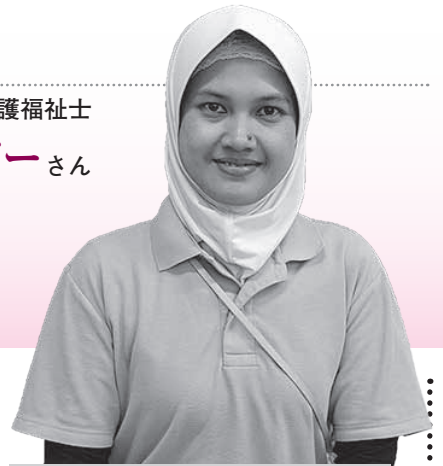


今、この人に Interview

**ご自身のがんばりと、
施設のみなさんの助けで
国家資格を取得。
入所さんの「ありがとう」の
言葉が励みです。**

特別養護老人ホーム「福寿荘」介護福祉士

イダ ジュバエダーさん



● プロフィール ●

インドネシア出身。大学で日本語を専攻し、卒業後はインドネシアの日系企業などで勤務。その後30歳のとき、日本がインドネシアと締結している経済連携協定(EPA)の制度で来日。大津市の特別養護老人ホーム「福寿荘」で介護の仕事に携わりながら日本語と資格取得のための勉強を重ね、2013年に介護福祉士の国家試験に合格した。

■ 今後はどんな夢を描いていますか。

夫はもともとレストランのシェフだったので、いつかは夫とインドネシアに戻って、一緒に自分たちの店を持ちたいねと話しています。母国で祖母に7歳の子どもを預かってもらっているので、いずれは一緒に暮らしたいですね。また、日本で学んだ介護の技術なども、親の介護のために役立てたいですし、みんなにも伝えられるかなあと思っています。友達と集まったときには、インドネシアもいずれ日本のように高齢化が進んでくるので、これから私たちの仕事が必要にされるはず、だから何かしようね、と言っています。

■ これからEPAで日本に来たいと思っている人にかきたい言葉は？

「頑張れば何とかなる、道は開ける」という言葉です。どんな仕事でも慣れない間は厳しいですが理解して分かってくればどんなに難しい仕事でも好きになれば何でも容易になってくると思います。日本語と文化の違い、言葉の壁があり、十分に言いたいことが言えないこともありました。その時支えてくれる方々がいて、胸に希望と夢を抱いて、一生懸命仕事をしながら勉強しました。大切なのは自分にあった学習方法を見つけて、振り返ることでも何か介護福祉士国家試験に合格することができると思っています。

■ 来日前、日本という国にどんなイメージを持っていましたか。

小さい頃テレビドラマの「おしん」をよく見ていたので、もっと昔のイメージがありましたね。いつもがんばっている、勤勉な働き者のイメージです。それから、技術的に進んでいるというイメージもありました。

■ 福寿荘に入ってから、日本で介護福祉士の資格を取る勉強を始めたのですか。

はい。介護の仕事をして、仕事の前か終わってから国家試験の受験勉強をしました。施設の日本人の先輩で資格を持っているスタッフが、毎日1時間30分指導してくれました。また、日本語指導者の資格を持っている方も、ボランティアで日本語の指導してくれました。そんな皆さんの助けがあって、2013年に一回目の受験で無事合格できました。

■ 滋賀県での暮らしはどうか。お友達と会ったりすることはありますか。

一緒に来日したインドネシアの友だちが全国にいますので、山口や広島などに遊びに行きました。その後日本で再婚して、夫は成田に住んでいるので月2回ぐらい会いに行っています。

■ 仕事では大変なこともあると思いますが、モットーにしていることや心の支えになっている言葉はありますか。

みんなに迷惑をかけないように、そしてみんな仲良く、という気持ちで仕事をしています。仕事の仲間から仕事の中での苦労話も聞きますが、どうしたいかはその人が自分で決めることなので、私は聞くだけでアドバイスはしないようにしています。「正しい道を歩いていけば、何が起ころうと怖くない」という言葉が心の支えになっていますね。それから、入所者さんから「ありがとう」と言ってもらえることも、お役に立てたなあと実感できて、とてもうれしいです。

【日・インドネシア経済連携協定(EPA)とは】

インドネシア人看護師・介護福祉士候補者を日本で受け入れ、日本で就労・研修を継続しながら国家試験を受験し資格取得を目指す制度で、平成20(2008)年より受け入れがスタート。イダ ジュバエダーさんはEPAで来日した外国人として滋賀県ではじめて国家試験を突破した。

■ イダさんはEPAの制度で来日されましたが、もともと日本に興味があったのですか？

大学で日本語を勉強していました。インドネシアには日本の企業がたくさん進出してきていたので、母から、将来的に日本語が話せたら、就職で有利になるだろうとすすめられたからです。3年間、大学で日本語や日本の文化、歴史について学び、卒業したら日本に行ってもっと勉強したいと思っていました。そのため国費留学生の試験なども受けましたが、残念ながら不合格で、なかなか日本に行くチャンスがありませんでした。

■ インドネシアでも介護の仕事をしていましたか。

インドネシアでは、日系企業の経営するゴルフ場でカスタマーサービスの仕事などをしていました。日本からのお客さんが多かったのも、日本語を使った仕事をすることができました。

■ その後EPAの制度ができて、日本に行くチャンスが訪れたんですね。EPAには、日本で介護の仕事をした人だけでも応募することができるのですか。

私が応募した時は、高等教育を3年以上受けた人なら看護師の資格をまだ持っていなくても応募できました。その後インドネシアで介護資格を取るために介護の研修を受けながらマーチングという雇用契約締結が成立して、4か月間日本語を勉強しました。来日後2か月間日本語研修及び介護導入研修を受講しました。その後特別養護老人ホーム福寿荘で介護福祉士候補者として研修を受けながら就労していました。

■ 滋賀県の施設を選んだのには、何か理由があったのですか？

インドネシアで働いていたとき、日系企業の仕事の関係で知り合った人には関西の人が多かったのも、馴染みがありました。それから、友だちから滋賀県は災害が少ないので、日本の中では一番安全だと聞いたんです。滋賀県に日本で一番大きい湖があることは、日本に来てから教えてもらってはじめて知りました。